

第 3 学年美術科 「ピカソを学ぶ」

～『ゲルニカ』の鑑賞と表現への展開～

1 題材目標

- ①ピカソの《ゲルニカ》の鑑賞を通して、鑑賞に興味を持ち、感性や想像力を働かせて、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を感じ取らせる。
- ②作品の背景や作者の意図を探るとともに、美術と社会のかかわりについて考え、見方を広げさせる。
- ③追体験的な表現学習を行うことで、より深く作品を鑑賞したり、造形表現の基礎的知識が身に付くようにして鑑賞の能力を高めさせる。

2 題材の評価規準と具体的な評価（判定）基準

評価の観点	題材の評価規準	具体的な評価（判定）基準	評価の手立て	
A 鑑賞 学習	美術への関心 意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ピカソ作品の鑑賞を通して、美術作品の多様な表現方法に対する関心を深め、鑑賞する喜びを味わおうとする。 ・作品の背景や作者の意図を探求しようとすると共に、美術と時代や社会とのかかわりに関心を持とうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品をよく観察し、その面白さやよさを積極的に味わおうとしている。 ・課題に対して意欲的に取り組み、文章で表現したり発表できる。 ・班の話し合い活動に積極的に参加している。 	授業観察 問答 ワークシート テスト
	鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、作者の心情や意図、また表現の工夫や想像力の豊かさなどを感じ取ったり味わったりする。 ・作品が生まれた背景を知り、美術と時代や社会とのかかわりに気づき、理解を深めたり、見方を広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話や他者の考えをよく聞き、自分の鑑賞に役立てたり深めたりすることが出来る。 ・既存の知識と新しい情報をリンクさせ、今まで気づかなかったことを発見したり、考えたりすることが出来る。 	
B 表現 学習	美術への関心 意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かして、自分の表現に役立てようとしたり、より深くモチーフや作品を見つめ、その面白さを探求しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのモチーフをいろいろ並び替え試行錯誤している。 ・資料集などの中から自分の作品に役立ちそうなものを選択し見つけ出そうとする。 	授業観察 作品
	発想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせてモチーフをよく見つめ、よさや美しさなどを感じ取ったりしながら、与えられた条件の中で、自分の表現を見つけ出し表そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチーフの特徴をよくつかんで面白さを発見したり、イメージを広げたりすることが出来る。 	
	創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを想像力や創造的な技能などを働かせ、表現意図にあう表現方法を試行錯誤しながら創意工夫し、自分なりの表現を求めて創造的に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デフォルメ、モノトーン、キュビズムなど『ゲルニカ』に見られる特徴的な表現方法を取り入れて表現している。 ・適切な描画用具を用いて効果的な表現が出来る。 	

3 授業展開

生徒の活動	教師の働きかけ
ピカソの絵を当ててみよう A鑑賞学習（1時間目）	
<p>○ピカソについて知っていることをあげる。 →「メチャクチャな絵を描く。」「意味がわからない」「何がいいのかわからない」など</p> <p>○提示された作品の中からピカソの作品をさがす。 →実はすべてピカソの作品であることを知る。</p> <p>○ピカソの作品で知っているものをあげる。 →「ゲルニカ」など</p>	<p>●中学生がピカソについてどんなイメージを持っているか確認する。</p> <p>●人物をモチーフにしたピカソの作品を7点ほど提示する。写実的なものから単純化されてものキュビズムの傾向が強いものなどいろいろな時代のピカソ作品を用意する。</p>
ゲルニカをじっくり鑑賞しよう	
<p>○ゲルニカを見て感じた印象を言葉にする。</p> <p>○グループになり、画面に登場するモチーフを目を引く順にあげる。 →「倒れた兵士」「泣く女」など</p>	<p>●いく人かの生徒に初発の印象を聞く。</p> <p>●「折れた剣」「アネモネの花」「目」「ランプ」などの一ひねりされたモチーフにどんな意味を感じるか考えさせる。</p> <p>●作品の大きさを教室の壁面で確認する。</p>
ピカソが表現したかったことは何だろう	
<p>○ゲルニカは何をテーマ《主題》にした作品か考える。 ・資料集のゲルニカについての解説を読み、自分なりにまとめる。</p>	<p>●プリントに記入させる。</p> <p>●いく人かの生徒に発表させる。</p>
色彩について考えよう A鑑賞学習（2時間目）	
<p>○モノクロームの色使いが作品にどんな感じを与えているか考える。 →「暗さ」「悲惨さ」「時間が止まった感じ」「生命感のなさ」など</p>	<p>●モノクローム、モトーンなどの用語を知らせる。</p>
形について気づいたことは？	
<p>○モチーフの形のとらえ方についてよく見る。</p> <p>①モチーフの変形(デフォルメ) ②生死の表現(特に目の表現による) ③顔の表現(横顔に正面から見た目の組み合わせ)</p>	<p>●エジプトの壁画の話</p> <p>●なぜキュビズムか・・・表情の表現のしやすさ？</p>

ゲルニカの制作過程を見てみよう

○第1段階の写真を見て、最終段階と違っている部分をいくつかあげる。

- ドラマールが撮影したゲルニカの第1段階の写真を提示する。
- ゲルニカがはじめの構想と違った形で完成していることに気づかせる。

ピカソの絵画に対する考え方を知ろう

○ピカソ自身の言葉から彼の制作理念、また絵画に対する考え方を知る。

- ①絵というものは描いているうちに変わっていくものだ。
- ②絵というものは見る人によって見方が違う。絵にはいろいろな解釈がある。

- ピカソが画面との対話、制作のプロセスを重視したことをおさえる。
- 画面との対話を重視したポロックの言葉の紹介
- ゲルニカはピカソが唯一自分でタイトルをつけた作品である事を知らせる。
 - ・タイトルをつけないことの意味
 - ・解釈を好まないピカソ

《ラス・メニーナス》のヴァリエーションを鑑賞しよう

○ベラスケスの《ラス・メニーナス》を鑑賞する。

- ・絵に仕掛けられたベラスケスのアイデアを知る。
- ・ピカソが行った連作形態の表現を知る。

- 彼の得意とするモチーフの変形(デフォルメ)は彼が尊敬する巨匠の作品さえも対象となる。ここではベラスケスのラスメニーナスを取り上げる。絵解きの面白さがある作品である。

この学習で学んだことや感じたことをまとめよう

○感想をプリントにまとめる。

ピカソの制作を追体験しよう

B 表現学習 (3~5時間目)

①ゲルニカのヴァリエーション『(タイトル)』

＝ゲルニカから選んだいくつかのパーツを画面に配置し、いろいろ入れ替えてイメージを膨らませながら自分の絵に描き変える。

②〇〇作『(タイトル)』のピカソ風ヴァリエーション

＝自分で選んだ名画をピカソ(ゲルニカ)風に描き変える。

描き変えのキーワード * デフォルメ
* モノトーン
* キュビズム

●ゲルニカに寄せるテーマ追求的表現学習

または部分から連想されるイメージの展開学習

●ゲルニカに見られる造形要素を利用した表現学習

①②ともA5程度の大きさの紙に制作する。

用具:鉛筆・ペン類・ホワイtpスカ・はさみ
両面テープ・マスキングテープなど